

# 令和7年度 学校評価

学校名	加古川市立平岡北小学校
-----	-------------

**1 教育目標** 生きる力を育む いきいきとした楽しい学校 ー思いやりに満ちた、豊かな人間関係を基盤としてー

**2 基本方針**  
 【めざす学校像】 子どもが夢の実現に向けて努力し、笑顔あふれる学校  
 【めざす児童像】 ○考える子 ○はげましあう子 ○元気な子 ○進んでやる子 の育成

**3 指導目標**  
 1 自ら考え 学び続け 行動する実践力の育成  
 2 認め合い はげましあう 豊かなこころの醸成  
 3 心身ともに健康な たくまさと忍耐力の育成  
 4 創り出す喜びを求め合い 何にでも積極的に挑戦する態度の育成

**評価基準**

A:できている                      B:だいたいできている                      C:あまりできていない                      D:できていない                      E:わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ（関係者評価）	達成状況
「確かな学力」を培う	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習規律・学習習慣の定着」や「自分の考えを表現する力」と記述など「わかる学力」の育成については「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合がそれぞれ保護者90%以上、児童80%以上、教職員90%以上の数値となっており、概ね高評価となっている。また、児童のアンケート項目の「学習の振り返りを行っているか」について、「できていない」が5.0%あるが、減少傾向にあり、授業で振り返る場面を大切にして取り組んだことや昨年度から継続して取り組んでいる自主学習ノートが定着してきたことによる効果が出ていると考えられる。</li> <li>ICT機器の活用や情報モラル教育の推進については、児童の89.7%が「正しく使えた」と回答し、保護者の92.0%が「活用取組や情報モラルの推進」に満足度を示しているが、教職員の約3割は「どちらかと言えばできていない」と満足しておらず、まだ改善の余地はあると感じている。</li> <li>読書活動については、児童アンケートの「本に親しみ、進んで読書できていない」と感じる児童の割合が7.9%と高めとなっているが、過去3年間で最小となっており、読み聞かせや家読の継続した活動により概ね充実してきているととらえられる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度から導入した自主学習ノートを来年度も継続して推進する。</li> <li>音読タイムを来年度も継続して実施する。</li> <li>学んだことを言語化したり、自分の考えを書くなどの時間を確保する。</li> <li>クロームブックを使うときのルールを徹底する。</li> <li>各教科での学習で、クロームブックの使用を推進する。</li> <li>クロームブックの効果的な使用方法に関する研修を図る。</li> <li>一昨年度から導入している家読や音読タイムを継続して推進する。</li> <li>電子図書館の利用などを啓蒙する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員は児童の学力向上にしっかりと取り組み、アンケート結果からも概ね高評価を得ており、よくやってもらっていると感じる。</li> <li>さらなる学力向上につながるよう「協同的探究学習」を継続して進め、「個別最適な学び」も取り入れながら熱心に取り組んでいる。</li> <li>具体的には授業での「めあて」の確認や「振り返り」を意識して効果的な授業実践を心がけている。</li> <li>学校での児童の様子を参観し、発表する姿や授業態度から、児童がしっかりと学習に取り組む、日々成長している様子が感じとれた。</li> <li>ICTについては、多くの児童がクロームブックを正しく使っており、さらに安全で、効果的に使えるような工夫を期待する。</li> <li>読書に関して、「家読」と昨年度から実施している「音読タイム」を継続し、PDCAが行われていると感じる。児童の関心をさらに高める工夫を期待したい。</li> </ul>	A
地域とともにある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校は、開かれた学校づくりに努めており、保護者や地域への情報発信にも力を入れている。「行事や授業参観などの定期的な取組」「HPやスクリーン等による学校の情報発信」に関して「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合が保護者90%以上となっており、高い評価となっている。</li> <li>平岡ユニットでの校種間連携の推進や学校支援ボランティアによる児童の教育活動の充実にも努めている。また、「地域人材を活用した特色ある学校づくり」に関して、教職員は、活動に応じた支援ボランティアの募集方法に工夫が必要であると感じている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校は、保護者・地域との連携・協働が求められていることを再認識し、協議しながら学校づくりに取り組む。</li> <li>学校・保護者・地域のニーズに柔軟に対応し、情報共有しながら取組内容の充実を図る。</li> <li>取組に対する情報収集や改善を図り、情報発信を継続する。</li> <li>地域の人の人材バンクづくりを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜栽培などで講師を招いて指導を仰いだり、読書について公民館から「読み聞かせ」に來校してもらったりするなど、地域の方の協力体制も充実してきている。</li> <li>「図書ボランティア」など保護者の方の協力体制も前向きであり、これからもお願いしたい。</li> <li>一昨年度からの取組である「登下校ボランティア」も継続して活動していただいております。「地域とともにある学校づくり」が順調に推進されている。</li> <li>コミュニティスクールとして、学校、保護者、地域住民での協働体制を推進し、今後も地域人材の確保と活用を進めていってほしい。</li> </ul>	A
誰からも信頼される教職員集団	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校は、教育目標や経営方針に基づいて教育活動に取り組み、教職員の専門性を生かして協働体制を構築し、計画的な研究に基づく授業実践など充実した取組を行いながら、児童理解に努めている。また、保護者や地域から相談しやすい環境（相談窓口）を構築し、誠実に対応して理解を得ることに努めている。「子どもについての教育相談」に対応している。アンケート項目でも「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合が保護者94.8%以上となっており、肯定的な意見が多いと考えられる。</li> <li>学校は、学期ごとにアンケートや聞き取りを行っており、多様なトラブルへの対応や個に応じた支援・配慮について不安を感じている保護者は昨年度より減少している。しかし、教職員の対応に一定の理解はしているが、「対応できているか分からない」と回答した保護者が1割以上あり、「悩みなどを自分から相談する」ことが苦手な児童が8.9%と一定数いることもわかった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度から導入された夏と冬の長期休業日前の個別懇談を継続し、信頼関係の構築を図る。</li> <li>児童の些細な変化に気づくための声かけの強化を図り、児童が相談しやすい環境づくりを図る。</li> <li>学年や学校全体での情報共有や報連相を徹底する。</li> <li>ローテーション授業や専科指導を活用して、学年全体で児童を見守り、情報を共有しやすい環境をつくる。</li> <li>トラブルの内容や状況に応じて専門機関とも連携しながら問題解決に取り組み、信頼できる大人に相談できる環境をつくる。</li> <li>取組に対する情報発信を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校で起こる様々な課題に対して、教職員は柔軟に対応してくれている。</li> <li>児童にとって、信頼して話ができる環境づくりを工夫してさらに推進し、今後も安全で安心な学校づくりに努めてもらいたい。</li> <li>学校評価アンケートの結果を踏まえて、さらに良い学校になるよう職場研修等を行い、現在の取組の点検と確認を行いながら改善にしっかりとつなげてもらいたい。</li> <li>情報共有を徹底し、取組に対する情報発信の仕方を工夫しながら信頼関係の継続に努めてもらいたい。</li> </ul>	A